



◎組合訪問記 「全電線…フジクラ労働組合佐倉支部」

組合活動の原点は組合員にあり

Q1 労働組合の成り立ちと役員体制について？

フジクラ佐倉事業所は1965年1月に設立し、今年で操業50年を迎えます。同年4月1日に事業所内の福利厚生などに対応するため、まずは専従役員を1名配置しました。正式にフジクラ労働組合佐倉支部が発足したのは、佐倉事業所の設立から2年目の1967年です。支部役員3名体制で発足しました。組合員数は、2014年末で1043名です。最盛期は2002年頃で1200名くらいでした。

フジクラ労働組合佐倉支部は現在、執行委員5名体制です。委員長（非専従）、書記長（専従）、執行委員3名（専従1名、非専従2名）で運営しています。非専従2名の執行委員の内、1名は女性です。2008年から女性執行委員を配置し、女性の声を組合活動に活かすようにしています。

Q2 労働組合の伝統の中で大切にしていることは？

フジクラ労働組合の綱領の中に、「私達は、技能を鍛え磨

き、道徳的な人を育て、物事を正しく見分ける力を養うことに務めることにより、人格の向上と完成をめざすことを約束する」とあり、活動する中でも、この一文を重んじています。労働組合として、組合員とのコミュニケーションをこころがけ、組合員の意見を大事にすることを伝統にしています。また、組合役員OBからのアドバイスも大切にしています。ものづくりの技能の錬磨と同様に、労働組合として、組合員のニーズに的確に答えられるように、労働組合としての技能の錬磨を心がけています。

Q3 労働組合の主な活動の特徴は？

佐倉事業所は開設当初は製造部門が主でしたが、研究開発部門を佐倉事業所に集約したこともあり、現在では、従業員全体の約6割が研究開発部門に携わっています。時代背景もあり組合員のニーズが多様化しているのが現実です。非専従の執行委員2名は、より現場に近い立ち位置にあることから、組合員のニーズをより掘り下げて意見を吸い上げる活動に取り組んでいます。

現在、女性従業員の割合は10%強という状況ですが、最近の研究開発部門だけではなく基幹作業職でも女性の採用を積極的に行っているの

で、年々女性の占める割合が増えています。そのような状況もあり、女性執行委員を中心とした女性懇談会を少なくとも年1回開催し、女性ならではの視点から意見を出していただくようにしています。

女性懇談会はざくばらんに話をする場です。例えば育児休業の取り方や働き方、短時間勤務などについて幅広く意見を集約して、労働組合の取り組みにつなげています。今後の取り組みとしては、男性の育児休業制度などについての理解が不足しているという意見もありましたので、女性懇談会に管理監督者の方にも参加していただき、制度についての理解を深めて頂くことなどを検討しています。

その他、将来を見据えた次世代リーダー育成の場として各部門から10名選出し、青年女性委員会を設置しています。青年女性委員会では若手組合員向けのイベントを企画したり、参加者



書記長
山崎 弘樹
やまざき・ひろき
2014年9月 書記長に就任



執行委員長
藤崎 英夫
ふじさき・ひでお
2014年9月 執行委員長に就任

全電線：フジクラ労働組合佐倉支部

フジクラ労組佐倉支部「青女新聞」

を募集したり主体的に活動をしています。限られた予算の中で魅力的な企画を考えるなど、経験と勉強の場にもなっており、若手の育成につながっているものと考えております。

Q4 特に重点を置いている活動は？

ひとつ挙げるとすると、先ほど申し上げた青年女性委員会の活動でしょうか。会社がカンパニー制をとっており、どうしても横のつながりが希薄になっているところもあるので、横のつながりを作るといいう意味でも大切な場になっています。

昨年度、フジクラ労組佐倉支部青年女性委員会としては年2回、12月に事業所内の体育館を使って「佐倉☆五輪」と題してのスポーツ大会、5月にはマザー牧場ツアーを実施しました。それぞれ50名ほどが参加し、他部署の方との交流、つながりを広げる場ともなっています。また、本社支部と合同で1泊2日の那須高原ツアーを実施し、50名ほどが参加しています。また社会貢献活動として地域のゴミゼロ運動にも参画

し、事業所周辺の清掃活動を行いました。普段車で通勤しているので気付かなかったのですが、実際に歩いてみると「こんなにゴミがあるんだ」と、実感しました。その他、アルミ缶・プルタブ回収活動、ペットボトルキャップの回収活動にも力を入れています。アルミ缶・プルタブ回収については、2010年4月に車椅子を佐倉市福祉協議会に1台寄贈、現在も継続して取り組んでおり、2014年6月現在、アルミ缶・プルタブ重量の累積は約200kg(800kgで車椅子1台分)、ペットボトルキャップの回収については、1年間で約19万個(ポリオワクチン228人分の回収を達成しました)。

佐倉支部としては、月1回の安全衛生委員会には必ず出席をし、ゼロ災害パトロールにも同行しています。労使協議会も月1回は定例で行っており、交代勤務など勤務変更や人の異動がある場合には随時開催しています。

Q5 現在抱えている課題は？

ワーク・ライフ・バランスの実現です。全電線の方針も「年間総労働時間1900時間台の定着」とな

っていますが、働き方も含めた総労働時間の短縮が大きな課題です。組合活動の中でも、特に有給休暇の取得促進やノー残業デーの推進などに注力しております。

地道な活動ではありますが、職場代議員で構成される教育・宣伝委員会が独自に「労働時間を短縮しよう」「休暇をとろう」と明記したポスターを作成し、各職場に掲示するようにしてい

ます。やはり、個々人が自ら意識を変えるということも大切だと思います。ただ近年、製造現場では製品の短納期化、海外部門では時差の関係等、顧客のニーズにこたえるために残業せざるを得ないなど、個人の努力・意識改革だけでは解決できないという課題も出てきました。このような労働時間の問題は、労使間で喫緊の課題として認識を共有するようにしています。

また、メンタルヘルスの問題を抱える要因のひとつに長時間労働がありますので、会社側で相談窓口を設けたり、システム上で上司がリアルタイムに部下の労働時間を把握できる様にするなど、労使で取り組みを進めております。

Q6 組合活動におけるご自身のモットー・心がけていることは？

【山崎書記長】「組合活動の原点は組合員にあり」との思いでやっています。可能な限り現場に赴き、組合員一人ひとりと会って話を聞くことを心がけています。労働組合の役割は、会社側と組合員との懸け橋だと考えています。組合員の声・意見をしっかりと聞いて、それを会社側に伝えることが使命だと考えています。一人では言えないこと、組合員の声を代弁することが労働組合の重要な役割ではないでしょうか。

【藤崎委員長】組合員と同じ目線で話すように心がけています。聞く耳を持ち、親身になって聞かなければと思っています。ただし、組合員の声を100%何でも聞けば良いかというとそうではないと思います。話の真髄は何かのを見極め、交通整理をし、組合員に納得と理解をってもらうことも労働組合の重要な役割だと感じています。

(文責・編集) 金属労協組織総務局